

□ 調査目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

▼ **教科に関する調査より** ▼

調査対象人数が少ないため、全体的な傾向や経年変化は一概には言えませんが、本校の調査結果の概要は、以下の通りです。

**国語**

- 「我が国の言語文化に関する事項」や「言葉の特徴や使い方に関する事項」は滋賀県や全国と比べて正答率が高く、言葉に関する力を伸ばしていることがわかります。
- 「読むこと」や「情報の取り扱いに関する事項」の領域では、他分野と比べると低い傾向にあります。文章の内容を正確に読み取り要約することや、文章と図の関係や情報と情報との関係を踏まえて内容を解釈し文章で表現することを繰り返し練習する必要があります。

**数学**

- 「数学の勉強は好きですか」「数学の勉強は大切だと思いますか」の質問に、当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒が、滋賀県や全国と比べて多く、数学に対する興味関心が高いことが伺えます。
- 「関数」「図形」の領域の問題では、滋賀県や全国と比べて正答率が高い問題もあり、具体的な事象に即して解釈することができています。反対に、事象を数学的に捉えたり、数学的な表現を用いて説明したりする力に課題があります。

▼ **生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査より** ▼

今年度の調査では、学校に行くのは楽しいと感じている生徒が多く、自分の良いところを認め、他者からも認められていると感じています。そのためか、意見の交換・交流については積極的な姿勢がみられます。困っている人がいれば自ら進んで助けようとする優しい気持ちをもつ生徒が多くいます。地域の行事にも参加し、地域に貢献しようという思いを持っている生徒も多いです。

その一方で、寝る時間や朝起きる時間は決まっている生徒と決まっていない生徒に分かれていました。また、図書館等の利用も含め、自主的な読書習慣があまりなく、家庭での学習時間も少ないようでした。

**強み・弱み**

全国平均と本校の結果の差が大きい項目は次の通りです。

<b>【強み】</b>	優れている
●自分の良いところを認め、他者からも認められていると感じている	●困った人を進んで助けようとする
●意見の交換・交流することに積極的である	●地域行事への参加率が高く、地域に貢献しようという思いがある
<b>【弱み】</b>	課題がある
●寝る時間が決まっていない生徒もいる	●家庭での学習習慣が定着していない生徒もいる
●読書にあまり取り組んでいない	

【指導の充実に向けて】

本校では、日頃より授業改善に向けて取り組んでいます。授業のめあて・まとめ・振り返り、取組時間等を視覚化し、すべての生徒に丁寧な支援を行い、分かりやすいユニバーサルデザインの授業を目指しています。

今年度の学力・学習状況調査の結果を踏まえ、以下の取組により、学習指導の充実を努め、学力向上を目指します。

- ①グループでの学習や異学年との合同授業を通して「協働的な学び」を進め、親和的な人間関係を醸成するとともに、自分の考えがうまく相手に伝わるよう工夫して発表したり、自分の考えを深めたり広げたりできるようにします。
- ②学習の振り返りを通して生徒同士が交流できるよう、めあて・教材や題材・時間・学習活動の設定を工夫します。
- ③家庭学習の定着を図るため、保護者との連携や地域の協力を得て、学び力の向上に取り組んでいきます。
- ④地域と交流する機会を増やし、地域や社会をよりよくするためにどうすればよいかを考えていきます。
- ⑤定期的に図書委員による読み聞かせを行ったり、新しく購入した図書を廊下に展示し学級文庫を充実させたりするなど、生徒が本に触れる機会を増やしていきます。